

原油高 もう限界

とどまることを知らない原油高。石油元売り各社は一日、石油製品の卸価格を引き上げ、道内でもレギュラーガソリン一リットル百八十円台の給油所が続出するなど、市民生活に多大な影響が及んでいく。日銀札幌支店がこの日発表した六月の道内企業短期経済観測調査(短観)でも、原油など素材高の影響で仕入れ値が上昇したことを示す指標が、一九七五年の調査開始以来、最高にこしたなか、新たな代替エネルギーや省エネへの関心も高まりつつある。

フェリー 減速して節約

クリーニング店「廃業も」

道漁連は一日、漁船に使うA重油の卸価格を一リットルあたり十一円値上げ。一年前に比べ五割超、四年前から二倍以上にも高騰した。同日、函館市漁協所属の小型イカ釣り漁船三十一隻のうち、数隻が出漁をとりやめた。「燃料費がかさむので水揚げが少なければ赤字。出漁に二の足を踏むんだ」と、同漁協の担当者は漁業者の窮状をこう代弁した。魚介類の価格は競り次第で、燃料の高騰分を転嫁できない

道漁連は一日、漁船に使うA重油の卸価格を一リットルあたり十一円値上げ。一年前に比べ五割超、四年前から二倍以上にも高騰した。同日、函館市漁協所属の小型イカ釣り漁船三十一隻のうち、数隻が出漁をとりやめた。「燃料費がかさむので水揚げが少なければ赤字。出漁に二の足を踏むんだ」と、同漁協の担当者は漁業者の窮状をこう代弁した。魚介類の価格は競り次第で、燃料の高騰分を転嫁できない

バイオ燃料 生産4.5倍

年に入って最も大きい減少幅となった。原油高騰は石油製品への依存度が高いクリーニング店の経営にも深刻な影響を及ぼしている。北海道クリーニング生活衛生同業組合(札幌)によると、ポイラに使う重油や灯油は六月で前年同月比65・67%、洗剤を溶かす石油系溶剤は同26%、ポリ袋やハンガーも同10%値上がり。だが、顧客離れを恐れ値上げをためらう店も多く、同組合は業界の大半は家族経営の中小店。経営者の高齢化もあって「赤字が増える前に店をたたもう」という店も少なくない」と打ち明ける。

一方、原油高騰でバイオ燃料など代替燃料が注目されている。軽油の代替燃料で、天ぷら油など廃食用油から作る「バイオディーゼル燃料」(BDF)は、燃料費や馬力は軽油と大差なく、排ガスから有害な硫黄酸化物がほとんど出ないなど環境に優しい。業者によって差があるが、価格は一リットル約百三十円と、軽油の約百六十円に比べて割安。北海道バイオディーゼル研究会(札幌)によると、道内の生産量は二〇〇四年の約二百九十四キリから、〇七年には約四千五百の約千三百二十八キリに増えたという。運輸業者も熱い視線を注ぐ。道内最大級のBDF製造工場を以削減する計画だ。

持つエコEBC(帯広)はこの数カ月、業者から購入希望が相次いでいる。原料不足もあり、新規の客は断っているほど」と話す。太平洋フェリー(名古屋)は一日、苫小牧―仙台―名古屋航路で到着時刻を最大一時間十分遅らせるタイヤ変更を十月一日から行うと発表した。原油高騰を受け、速度を落として燃費向上を図る。同社はフェリー三隻を使い、苫小牧―仙台間で一日一往復、仙台―名古屋は隔日で一往復運航。古屋航路で到着時刻を最大一時間十分遅らせるタイヤ変更を十月一日から行うと発表した。原油高騰を受け、速度を落として燃費向上を図る。同社はフェリー三隻を使い、苫小牧―仙台間で一日一往復、仙台―名古屋は隔日で一往復運航。